

2023年度第2回(2023年第7回) 理事会議事録

日 時：2023年11月29日(水) 15:00～18:30場
所：パシフィコ横浜ノースG215
現地出席者：宇野隆(理事長)、溝脇尚志(専務理事)、

青山英史、有賀久哲、井垣浩、石川仁、
内田伸恵、大西洋、大野達也、岡嶋馨、
小川和彦、古平毅、櫻井英幸、
佐々木良平、澁谷景子、高橋健夫、
中村和正、村上祐司(以上理事)、
生島仁史、塩山善之(以上監事)、
茂松直之(第36回大会長)、角田怜子、
鈴木弘美、山内蓉子(以上事務局)
(敬称略)

審議事項

1. 2023年第6回理事会(2023/10/27)、

メール理事会議事録確認 (溝脇専務理事)

- 前回(2023/10/27)理事会議事録案と、その後の進捗状況が確認され、承認がなされた。
- メール審議2023-02号(2023/11/13-11/15)：10/27理事会で承認された「日本専門医機構認定放射線治療領域専門医研修制度整備基準(第2版)」の運用細則 version2にあわせて作成された日本専門医機構放射線治療領域専門医研修手帳(案)について全員賛成の回答で可決したこと、また2024年度のサブスペシャルティ放射線治療専門医申請者よりこの研修手帳を利用する予定である旨が確認された。

2. 会員の入会他 (溝脇専務理事)

- 1) 2023年10月11日から2023年11月20日までの入会申請は22名[内訳_正会員11名、准会員11名]であることが報告され、承認された。
- 2) 2023年11月20日現在の会員登録状況について下記のとおり説明がなされた。
 - 会員総数：4,317名 [内訳_正会員2,262名、准会員1,960名、名誉会員51名、賛助会員39社、国際賛助会員5名]
 - 退会者：4名 [正会員3名、准会員1名]
 - 正会員内訳：医師2,045名 歯科医師45名 医師以外172名 (医師比率90.41%)
 - 男女比率：正会員[男性1,816名、女性446名]、准会員(男性1,500名、女性460名)
 - 専門医数：1,442名(男性:1,168名、女性:274名)
 - 会費納入率：当年度 正会員53.31%、准会員40.26%

3. 総合補償 (団体保険) 状況報告と、制度継続について (溝脇専務理事)

現状の総合補償 (団体保険) の加入状況について、加入者が団体割引適用まで達していないため、次年度団体制度継続の場合は2024年6月までに団体割引20%を適用できる加入者数の確保 (医師賠償保険458名以上/傷害・がん988名以上) が必要である旨、保険代理店より説明がなされた。この加入者数確保は現実的にみて困難であるため、次年度2024年10月開始の団体制度は継続しないことが承認された。なお今年度保険の加入者へは次期契約についての案内等を個別に保険代理店より丁寧に行う旨確認された。

4. JROD データ利用申請について (中村理事)

がん放射線療法認定看護師の在籍の有無により、放射線療法実施施設での乳がん患者の症例解析研究の為、JROD登録の大阪府内10施設のデータ利用申請が会員からあったことが説明された。データ収集の際にデータ提供の承諾を得ておらず、またある程度施設の特定ができてしまうこと等から今回データの提供は不可とすることが承認された。また今後のJRODデータ利用については、DB委員会で、データのフォローアップを行いデータの質を高め、利用規程の整備を検討することが確認された。

5. 放射線治療 PR コミック優秀作品の決定と、次期コミック大規模コンテストの可否 (岡嶋理事)

- 特定費用準備金：放射線治療 PR 事業企画「放射線治療を題材として漫画学校 (日本工学院) 第1回コミックコンテスト」について、1次審査 (ネーム) を通過し作画まで完成した最終4作品について、理事会・広報委員会メンバー35名による審査結果が示され、最優秀賞・優秀賞の作品の決定が承認された。今後はこれらコンテストの入賞作品の著作権は当会に帰属することになっており、PRツールとして、コミック冊子体を作成し、まずはJASTRO認定施設他へ配布を実施し、PR活動に活用していくことが承認された。尚、このうち1作品は放射線治療機器による治療シーン (作画) がいないため、冊子

体配布等のPR版では表紙や解説等で何等かの作画を加える必要がある旨が確認された。

- 第1回コンテスト作品を活用したPRについて、メディアPR (新聞広告/Twitter) のを実施した場合の企画・見積が提示されたが、この費用は高額なため、このPRを実施せず、第2回コミック大規模コンテスト (漫画学校22校等へ公募を拡大する案) の実施に変更する案・見積が提示された。現予算では、第2回目コンテスト実施費のみでPR費まで含めると予算オーバーとなること、またメディアPR (新聞広告/Twitter) 以外のコミック誌でのPR案等も含めて、再度、予算内で実施できる案を検討することが確認された。

報告事項

1. 理事長・専務理事職務状況報告

(宇野理事長 / 溝脇専務理事)

現在までの業務状況・活動報告がなされた。

2. 雑誌 Nature 特集企画 (宇野理事長)

10/27理事会にて承認された雑誌Nature“放射線領域特集号”の有償の記事広告掲載(2頁)について、その後5団体が参加し、4頁枠に広げる方向となり、各学会200万円程度の負担協力の依頼があった。当会は当初の予定通り150万円(税別)を負担する旨報告された。

3. 粒子線治療委員会報告 (櫻井理事)

先進医療会議への報告書「先進医療として実施した粒子線治療と既存の放射線治療との比較」-先進医療成果論文を含むシステムチェックレビューと統一治療方針による放射線レジストリ解析」-の報告書が提示され、すでに厚労省へ提出した旨報告された。

4. 将来計画委員会 AI-WG 進捗報告 (村上理事)

データベース構築のためテストサイトの作成を進めている旨等が報告された。

5. ガイドライン委員会報告 (井垣理事)

- 日本アイソトープ協会より「シード線源による前立腺永久挿入密封小線源治療の安全管理に関するガイドライン (第6版)」査読依頼があり、ガイドライン委員会で査読の結果、修正等の意見は特になかった旨報告された。
- 「治療計画ガイドライン2024」作成の進捗状況について、来年の学術大会での発刊を予定しており、現在、原稿案がまとまってきたため、来年2月までに会員へパブコメ実施する旨が報告された。

6. がん放射線治療推進委員会報告 (石川理事)

- 今年度新規事業：脊椎SBRT小委員会企画の「第1回脊椎SBRTハンズオンセミナー」について、当番世話人 (平田岳郎会員・金田朋也会員)、日程 (2024年6月2日)、会場 (バリアンメディカルシステムズ本社)、募集人数20名 (10施設)、プログラム案等 (治療計画装置を用いた実習/講演のうち教育講演は後日JASTROホームページに掲載予定) が報告された。
- 医学部における放射線治療教育小委員会にて実施

中の、大学での放射線治療教育の充実のための各大学宛ての資料提供について、16施設から回答があり、11施設から参加承諾・6施設から資料提供(内2施設は講義資料)があった旨報告された。その他の現状のe-learning、教育委員会のコンテンツteaching file等も活用すること、各理事へも更なる協力依頼がなされた。

- 第5回RI内用療法セミナー開催予定について(2024年3月9日、当番世話人：西井龍一会員、会場：名古屋大学総合保健学 大幸キャンパス東館大講義室) 報告された。

7. 放射線治療専門医制度委員会報告 (古平理事)

- 日本専門医機構が示した「機構認定サブスペシャリティ領域「専門医の認定・更新」に関する整備指針」に基づき、更新に関する基準を定めた治療サブスペ改訂用 日本専門医機構認定 放射線治療専門医 資格更新基準第1版が示され、説明がなされた。
- JRS 専門医制度委員会を中心に、放射線科専門医総合修練／修練／特殊修練期間認定基準改定作業が行われており、「治療部門」の改訂案について、放射線治療専門医制度委員会よりの改訂案が作成された旨報告された。

8. 緩和的放射線散医療委員会報告 (高橋理事)

- 緩和的放射線治療好事例集作成WGについて、現在38の好事例が集まっており、2024年上半期の完成へ向けて、カテゴリー分類・内容の整理・見出し作成等のブラッシュアップを実施する旨報告された。
- 緩和的放射線治療ガイドライン検討WGについて、斉藤哲夫会員を中心にMindsマニュアルに沿ったCQ形式の診療ガイドラインの作成を進めている旨報告された。
- 厚生労働省：里見班の研究にて、がん疼痛の治療に関する専門的な知識・技術を必要とする患者や医療者に対し緩和ケアの専門家がWeb上でアドバイス等を行うサービス「専門的がん疼痛治療コンサルテーションシステム(CHALLENGE-CanPain)」が開発・運用されている旨報告された。
- 日本緩和医療学会との次回合同シンポジウムについて、MOUに基づき、2024年第29回日本緩和医療学会学術大会での開催を検討している旨報告された。

9. QA委員会・第三者出力線量評価認定作業部会報告：第三者評価ガイドライン改訂(澁谷理事)

前回10/27理事会にて提出の「放射線治療における第三者機による出力線量測定および評価に関するガイドライン2023(案)」について、ガイドライン委員会(GL)より「第三者の定義」の文案に対して指摘があり、営利企業でない場合でも利益誘導、利害関係、あるいは利益相反が生じることのないように記載した修正案を作成し、GL、日本放射線技術学会、日本医学物理学会で承認された旨報告された。またCOIについては、倫理委員会での審議に基づき、GL公表前年過去3年分のCOI、及び品質管理の活動を実施する団体での役員について記載した旨、確認が

なされた。

その他審議事項

1. 点滴静注 用法用量の一部変更承認(宇野理事長)

デュルバルマブ(遺伝子組換え)として抗悪性腫瘍剤「イミフィンジ®点滴静注120mg・500mg」の、「切除不能な局所進行の非小細胞肺癌における根治的化学放射線療法後の維持療法」における用法及び用量の変更が承認され、ホームページに注意喚起する旨説明された。

2. 日本医師会との共催による企画講演「放射線治療分野における男女共同参画・ダイバーシティの現状」の実施 (内田理事)

- 2023年12月1日(金)第36回学術大会中に日本医師会 日本女性放射線腫瘍医の会との共催で「放射線治療分野における男女共同参画・ダイバーシティの現状」の企画講演を実施する予定である旨、報告された。
- 「やさしくわかる放射線治療学改訂第2版」出版について現在、修正が必要な項目や新規追加項目について確認を進めている旨報告された。

その他

3. 2024年の年間スケジュールについて確認がなされた次回以降の開催予定日は以下の通り。

2024年第1回理事会(1月19日)、第2回(3月15日)、第3回(4月12日)、第4回(6月28日)、第5回(7月26日)、第6回(8月24日)、第7回(10月11日)、第8回(11月20日)

4. ESTRO・ASTRO代表者プレゼンとの意見交換

ESTRO代表のDr.Dirk Verellen(Directors,the Physics Committee and the Radiation Oncology safety Committee)、ASTRO代表の:Dr.Laura Dawson(Immediate Past Chair)が出席され、学会活動、放射線治療に関する現状・展望に関するプレゼンテーションがおこなわれ、当会各理事との意見交換がなされた。

5. ASTROとのMOU調印

ASTRO代表(代理)の:Dr.Laura Dawsonと宇野理事長とで来年のASTROより、相互の合同シンポジウムの実施を盛り込んだMOUの調印を行った。

6. 厚生労働省医系技官人事交流について

(厚生労働省 医政局 地域医療計画課 医療安全推進・医務指導室長 松本 晴樹氏、厚生労働省医系技官の山田貴志会員)

現在、山梨大学放射線科より出向し活躍している厚生労働省医系技官の山田貴志会員の上司である松本晴樹厚生労働省医系技官より、医系技官のキャリアや処遇、厚生労働省との人事交流のメリット等が丁寧に説明され、放射線治療の認知度の向上、JASTROと行政とを繋ぐ架け橋となるよう、今後も引き続きJASTROから人事交流を継続的に出していくことの重要性や医系技官派遣への協力依頼が説明された。

以上